

人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育

市川市教育振興基本計画

～次のような目標を掲げています～

教育いちかわ



子どもの姿 自分や他人を大切にし、社会の中でたくましく生きていくことのできる子どもを育てる

家庭・学校 地域の姿 自らの役割と責任を担いながら、たがいに連携して教育の向上に取り組む家庭・学校・地域を実現する

市川の教育の姿 教育環境の整備を図り、質の高い市川の教育を推進する

■発行
市川市教育委員会
〒272-0023
市川市南八幡1-17-15
TEL 334-1111

■企画編集
市川市教育センター
〒272-0015
市川市鬼高1-1-4
TEL 320-3335

新教育委員会制度スタート!!

1 改正の経緯

中学生のいじめ事件への対応に対する批判を発端として、国の法律改正により、この4月から新しい教育委員会制度がスタートしました。今回の制度改正の基本的なねらいは、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図ることにあります。本紙では具体的な改正内容と本市の取組を紹介します。

2 改正の内容

(1)新教育長の設置

旧制度における「教育委員長と教育長のどちらが責任者かわかりにくい」などの課題を

受け、新制度では教育委員長と教育長の機能を一本化した「新教育長」を設置することとされました。また新教育長は、議会の同意を得て、市長が任命・罷免を行うなど、市長の任命責任の明確化が図られました。本市では、市議会の同意を経て、大久保市長の任命により田中新教育長が就任しました。

(2)チェック機能の強化・会議の透明化

今回の制度改正では新教育長が大きな権限と責任をもつため①教育委員によるチェック機能を強化するため新教育長に事務の執行状況の報告を義務付ける、②教育委員会会議の透明性確保のため、議事録の公表を努力義務化するなどの改善が図られました。なお本市では、制度改正前から教育委員会会議の議事録を公開しております。

(3)総合教育会議の設置

「いじめ等の問題に必ずしも迅速に対応できていない」、「地域住民の民意が十分に反映されていない」などの課題を受け、新制度では、

首長と教育委員会で構成される総合教育会議を設置し①教育に関する大綱の策定、②教育の条件整備など重点的に構すべき施策、③児童生徒の生命・身体の保護等緊急の場合に講じべき措置を協議することとされました。本市では4月に開催し、教育に関する大綱の策定方針を協議し「市川市いじめ防止基本方針」の内容について教育委員会より報告しました。



第1回定例教育委員会(4月9日開催)

(4)首長による教育に関する大綱の策定

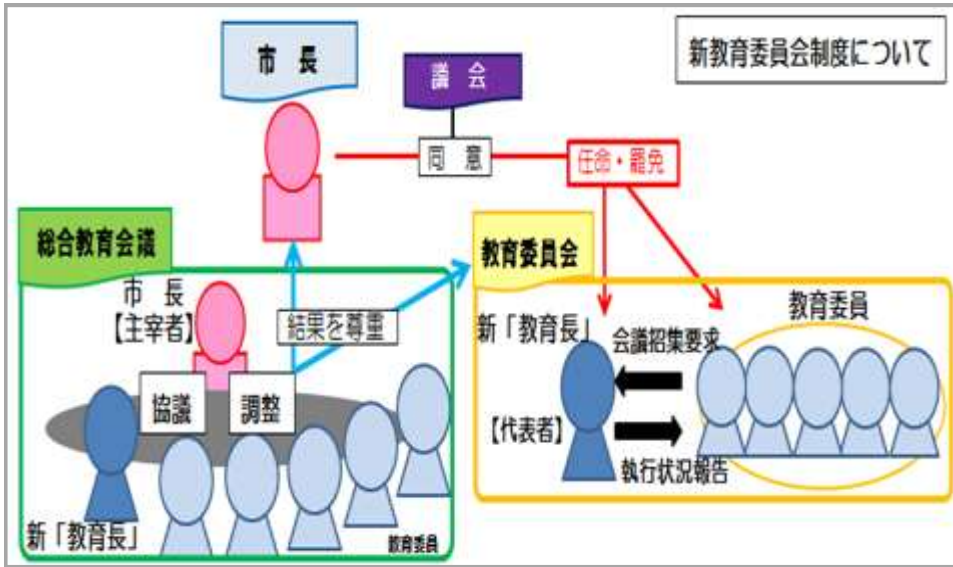
新制度では、総合教育会議において教育の目標や施策の根本的な方針をまとめた教育に関する大綱を策定することとされました。本市では協議の結果、①教育・文化・スポーツを広く網羅したものとする、②既存の市や市教育委員会の計画にある目標等を踏襲する、との2点の方針に沿って大綱(案)の策定を進めることとされました。

教育委員会では、改正の趣旨を真摯に捉え、市の教育のさらなる充実に向けて、全力で取り組んでいきたいと考えています。

【教育総務課】

◀ 関連情報 ▶

[総合教育会議HP](#) [教育委員会会議HP](#)



「いじめは人間として絶対に許されない行為である」、「いじめは、どの子どもにもどの学校でも起こりうる」。

こうした基本的な認識に立って、市川市教育委員会では「市川市いじめ防止基本方針」を策定しました。(国の「いじめ防止対策推進法」、千葉県「いじめ防止対策推進条例」を踏まえ本年3月に策定)

そこで「市川市いじめ防止基本方針」の内容について、①市川市のいじめ防止に向けた取組と、②いじめが起きてしまった場合の対応について、今回と次回の2回にわたって紹介します。

いじめ防止の取組①

いじめの未然防止には、日頃から「わかる授業」を通して児童生徒一人ひとりの自己肯定感を高めることが大切です。そしてさらに、教職員がきめ細かな指導を通じて児童生徒理解を深め、適切な規律の中で、児童生徒が楽しく学びつつ生き生きとした学校生活を送れるようにしていくことが重要です。

「きめ細かな生活・学習支援」を進めます

教育委員会では「少人数学習等担当補助教員」や「スクール・サポート・スタッフ」を各学校に配置し、充実した学習指導を支援することで「学ぶ喜び」にあふれた学校づくりに努めています。

また、児童生徒が抱える精神的な悩みや不安に対しては、適切に対応できるよう「ライフカウンセラー」を全校配置し、心の居場所づくりや児童生徒の相談に積極的に対応できるよう体制を整備するこ

いじめのない学校を目指して①

とにより楽しく学校生活を送れるよう努めています。

いじめ防止の取組②

直接児童生徒の指導に関わる教職員は、子どもたちの心のサインを見逃さず、いじめを未然に防止したり適切に対応したりする能力を持つことが必要となります。

「教職員のための研修会等の充実」を図ります

教育委員会や学校では様々な研修会を実施し、「いじめは絶対に許さない」という姿勢で指導にあたることや、学校の組織全体で対応することなどを機会あるごとに研修しています。

他にも、小中学校生徒指導主任会を通して、学校と教育委員会が報告・連絡・相談をきめ細かく行い情報共有に努めることにより、一体的ないじめに関する対応を進めています。

いじめ防止の取組③

いじめの未然防止には、学校と地域・外部機関とが子どもに関する情報を共有し、生徒指導の諸問題の解決に向けて、連携を図ることが重要です。

各種協議会を通して、「地域・外部機関との連携」を強化します

教育委員会では、「学校警察連絡協議会」を定期的開催し、学校と警察との情報共有を図っています。特に本年度からは、いじめ防止について関係機関との情報共有の範囲を拡大し、連携の強化を図ってまいります。その他、「健全育成連絡協議会」の場を通して地域との連携にも取り組んでいます。

【指導課】

塩浜学園開校! ~新たな校章に願いをこめて~

真新しい校旗~開校式にて~

市立塩浜小学校・塩浜中学校が、小中一貫校「塩浜学園」として新たに開校し、4月9日(木)に開校式が行なわれました。

塩浜学園は、市内初となる公立の小中一貫校です。また、学校の統廃合を伴わない形での一貫校は、県内初のケースでもあります。



大久保市長から校旗を受け取る
渡邊塩浜学園校長

開校に伴い、校章も新たに制定され、開校式で披露されました。開校式では新しい校章が入った真新しい校旗が、大久保市長より渡邊校

長に手渡され、会場は大きな拍手に包まれました。

塩の結晶のように

新しい校章のデザインは、塩浜中学校の保護者の方と、県立市川工業高校インテリア科の生徒によるものです。

「塩」の結晶をイメージした菱形のデザインの中央には、大きく描かれた塩浜の「S」の文字。その周りには海に近い塩浜地区らしく、波のデザインが配されています。

また、青色は東京湾を、緑色は市川の木である黒松を、そして水色は大空を表しています。

それらを身近に感じることができる「ふる

さと・塩浜」で育つ子どもたちには、様々な造形を作り出す塩のように、それぞれが豊かな個性と多彩な夢を持ち、輝いてほしい、との願いが込められています。

また、塩浜学園の学校教育目標は、

「ふるさとを愛し、自ら夢を持ち、心豊かで、たくましく生きる児童・生徒の育成~人をつなぐ 未来へつなぐ~」です。

この新しい校章に込められた願いとも、しっかりとつながっています。

市川市では、新たな校章に願いを込めて、これからも義務教育9年間の豊かな「学び」と「育ち」をつなぐ小中一貫教育を推進してまいります。

【教育政策課】



塩浜学園の新しい校章

おめでとうございます!

文部科学大臣表彰「子どもの読書活動推進実践校」

福栄小学校では、学校図書館や市民図書室を活用した授業や読書活動が日常的に行われています。この実践により、この度『子どもの読書活動優秀実践校』に選ばれ、4月23日(木)の「子ども読書の日」に開催された「子どもの読書活動推進フォーラム」の中で文部科学大臣表彰を受けました。

市川市では、学校図書館を活用した授業や行事が全ての学校で展開されており、今回の受賞も富貴島小学校・鬼高小学校・稲越小学校・塩焼小学校・中国分小学校に続いて6校目となりました。

これを機に、更なる学校図書館活用の推進を図っていただきたいと思います。【教育センター】



文部科学大臣表彰を受ける
杉本福栄小学校長

新しいコミュニティサポート

~地域のかで“学校支援”を~

昨年度から一年間をかけて会議の精選を行いました。コミュニティサポート(以下CS)のねらいをより具体的な文言に変更しました。この変更は、ねらいをわかりやすくすることで、地域と学校がさらに一体となって子どもたちを育むことを目指したもので、これまでのCSが意図するものと異なるものではありません。事業の具体化・具現化を図るために改めました。

◆コミュニティサポートのねらい◆

【旧ねらい】	【新ねらい】
<ul style="list-style-type: none"> ☆子どもたちの健全育成 ☆子どもたちを育むコミュニティづくり ☆生涯学習社会の創造 	<ul style="list-style-type: none"> ★児童生徒の安全と社会体験・生活体験の充実を地域から支援する体制の強化 ★学校を核とした地域振興・コミュニティの活性化 …その実現のため「家庭・学校・地域及び行政の連携」を推進

1 CS委員会について

CS委員会は、市内小・中・特別支援学校55校に設置されます。諸団体の代表者・地域住民が同じテーブルにつき、学校と地域(家庭)の連携並びに地域間の連携を目指すものです。

昨年度は、市内全てのCS委員会で153回の会議が行われました。CS委員会では、主に3つのテーマ(地域社会づくり・学校外支援・学校支援)が話し合われます。このCS委員会には多くの地域の方々に参加していただいております。昨年度は市内で1,447名の方々に関わっていただきました。

2 学校支援コーディネーターについて

学校支援活動を進める上で、学校と地域のつなぎ役を務めるのが『学校支援コーディネーター(以下CN)』です。この取組は3年目を迎えます。4月23日(木)に、CN委嘱状交付式を行い、田中教育長が委嘱状を授与しました。今年度は40校47名のCNに委嘱状が授与され、活躍が期待されているところです。

今年度も、CNが学校と連携し、様々な活動を展開していきます。皆さんの地域の取組について知りたい、地域ボランティアとして参加したいという方は、社会教育課(Tel 383-9386)までお問い合わせ下さい。【社会教育課】



田中教育長から委嘱状を授与される学校支援コーディネーター

2万人が学んだ縄文人の知恵や工夫

~縄文体験学習2万人達成セレモニー~

考古博物館では、小学校6年生向けに実施している縄文体験学習の参加者が4月30日(木)に累計2万人を達成し、記念セレモニーを実施しました。記念すべき2万人目は、新浜小学校のみなさんでした。縄文体験学習は、国史跡の堀之内貝塚や博物館の見学に加え、ボランティアのみなさんの指導による火おこし体験や、土器を使ったあさり汁など、「見て、触って、食べる」という五感を使った体験学習です。

セレモニー当日は、教育長、生涯学習部長、新浜小学校長のご出席のもと、花束や記念品(キリモミ式とマイギリ式の火おこし道具)の贈呈、児童代表からのお礼の言葉の後、記念撮影を行いました。



田中教育長と新浜小学校のみなさんで記念撮影

市川市には、55カ所の縄文貝塚をはじめ、多くの史跡や文化財が残されています。この縄文体験学習をきっかけにして、市内の歴史に興味を持ってもらえると嬉しく思います 【考古博物館】